

熱川温泉病院 稲葉 美和子(言語聴覚士)

- 功 績** ある回復期リハビリ患者の改善が進む中で、嚥下の改善を阻む要因があった。経管栄養からPEGに移行すれば改善が期待できるのだが、患者さんは不安を覚えていた。それが稲葉の調整力でチームアプローチが加速し、解決へ力を添え、患者が3食常食摂取自立・歩行自立・自宅退院となった功績
- 推 薦 者** 田所 康之
- 推 薦 理 由** 医師、病棟、リハビリ三科、栄養科、MSW等と連携し、働きかけて、STとしての力を添えることができました。その甲斐あって、3食経口摂取、自宅退院という成果に至りましたので、ST稲葉を理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

T.Yさん・61才・男性は、大腸憩室炎でS病院入院中に左椎骨脳底動脈瘤解離にともなう脳幹梗塞を発症し、2016年9月末に嚥下障害、歩行障害に対する回復期リハビリと透析目的で当院転院となりました。

入院時、右上下肢に感覚麻痺がある程度でADLは見守りでありましたが、体力向上に伴いADL向上がみられました。しかし、嚥下機能においては改善がみられませんでした。

患者さんは経鼻のため痰がからみ微熱を繰り返し、訓練効果が上がりません。稲葉はあと嚥下改善だと認識しました。

患者さんは経鼻なしにする条件であるPEG造設に不安と恐怖を抱いていました。

そのため、稲葉は関係職種との意見交換を通して、経鼻無しでの訓練での必要性和効果とを説明し、情報を共有しました。

また、患者さんと家族に関係職種がPEG造設の有効性を説明し、主治医がPEG造設を勧めると、承諾していただきました。

早速、年末年始の外泊を控えた12月中旬にPEGを造設し、管理方法を家族（妻）に指導しました。

正月を無事に自宅で過ごし帰院しました。

経管が外れたことで患者のモチベーションが上がり、嚥下機能改善が急速に進み、2017年1月6日から昼食「お試し」経口摂取、その後むせがなく1月11日から3食経口摂取、徐々に食形態向上し最終的に米飯・常食となり、2月21日PEG抜去、2月25日自宅退院となりました。